

令和元年度第2回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会 地域連携部会 会議

日時： 令和元年10月21日（月） 午後2時から午後3時50分

場所： 鎌ヶ谷市役所地下1階 団体研修室

出席者： 星野里香（障がい福祉課課長）、黒岩史郎（鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会会長）、菊地謙（同副会長）、星野暁洋（障がい者の働くを支えるチーム）、渡辺博（地域資源を調査・研究しより良い方策を提言するチーム）、上谷豪（障がい者のつながりを支えるチーム）、高畑和幸（障がい分野の情報を発信・啓発するチーム）、福田弘子（精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム）、林恵利（医療的ケア児支援チーム）

事務局： 【鎌ヶ谷市障がい福祉課】遠藤課長補佐、星庶務係長、中村主査補、鈴木

【鎌ヶ谷市基幹相談支援センターえがお】渡辺、馬場、久保田

関係者： 鎌ヶ谷市市民活動推進センタープロジェクトマネージャー 影山

傍聴者： 0名

・ 本日の委員の出席者数と傍聴者数の報告

本日委員出席者9名、全員出席のため、会議成立の定則数の過半数を超えている旨報告。

・ 部会長挨拶

1 各テーマ別チームからの報告及び検討

(1) 障がい者の働くを支えるチーム

「障がい者が働ける場所が少ない」という問題と、「事業所で働く賃金（工賃）が低い」という問題をチーム内でAグループ、Bグループに分かれて話し合ってきた。

Aグループ、Bグループともに課題の明確化はできたものの解決策を具体化するのに行き詰ってしまった。障がい分野の人だけではなく商工分野の状況を知る方の意見も取り入れた方が良いということで、令和元年11月8日に商工分野にも人脈があり、福祉分野にも理解がある橋本結希さん（訪問美容を経営）と意見交換を行う予定になっている。また、前回の地域連携部会の会議でアドバイスいただいた「チャレンジドオフィス」(※)については、実施している市の状況を情報収集したところ、しっかりとした仕事を提供できないところもあることが分かった。チームとしては、「チャレンジドオフィス」の立ち上げというより、民間企業での雇用の拡大や福祉サービスの分野での工賃の向上といった方向のアプローチをしていきたいと考えている。

※ チャレンジドオフィスとは、一般企業での就労を目指している障がい者を対象に、県庁や市役所内で一定期間非常勤職員として雇用し就労経験を通じて一般就労のためのステップア

ップの場とする取組

(2) 地域資源を調査・研究しより良い方策を提言するチーム

移動支援の活用に関して、通学・通所が困難な人がどのくらいいて、どうしているのかを調査するためのアンケート案を作成した。

アンケートの内容はチームで精査した結果、できるだけ答えやすく回答者の負担にならない形を目指した。調査の対象は、特別支援学校、特別支援学級に通っている市内在住の生徒及びその保護者を中心に、鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会（以下「自立支援協議会」という。）に参加している各事業所にも協力いただき、通所者へも配付したいと考えている。

今後の流れとしては、本日の地域連携部会です承いただければ、次回の本会議に提案し承認を得たうえで、令和元年11月末までにアンケート用紙を配布し、12月末までに回収、令和2年1月に集計し、3月までには結果をまとめたいと考えている。アンケート調査の結果を今後どのように分析していくのか、そして、その結果をどのように検討につなげていくか、もう少し掘り下げて考えて行くことも必要だと考えている。

(3) 障がい者のつながりを支えるチーム

「つながりを支える」というテーマは、児童、精神、高齢、教育等いろいろな分野にまたがっていて、縦割りでは解決できない課題である。現在は、メンバーで持ち寄った「どう対応したらいいのか困った事例」を検討している。チームメンバーである八千代地域生活支援センターの恩田さんが、繋がるために必要な機能を12種類に分類してくれたので、今後持ち寄った事例を通して、どんな機能が足りないのかということを検討していきたいと考えている。

(4) 障がい分野の情報を発信・啓発するチーム

当初予定していた講師候補の方と都合がつかず、講師を畝本彩美さんに決定した。講師は視覚障がいの当事者で「障害平等研修」のファシリテーターとして各所で活動されている方である。開催日は令和2年3月7日（土）、場所は東部学習センター、定員は50名、形式としては4～5人程度のグループに分かれワークを行う予定である。1月上旬には自立支援協議会委員やチームメンバーを中心にお知らせしたい。他のスケジュールは資料のとおりである。

(5) 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム

前回から特に変わったところはない。病院の地域連携部門の方にも参加していただき、引き続き事例検討を行っている。あと2つ事例が残っているので、それが終わり次第フローチャートに着手しようと思っている。

(6) 医療的ケア児支援チーム

メンバーに直接医療的ケア児に携わっている人がいないため具体的な関係機関の役割についての全体像の把握ができていないことが課題であった。そこで習志野保健所の保健師の方や実際に医療的ケア児の支援を行っている訪問看護ステーションの方にも参加していただき、医療的ケア児についての勉強会を行った。医療的ケア児と言っても、人口呼吸器、吸引、自己導尿、インシュリンの注射等、対象となる幅が広いため、計画的な取り組みを行うためには、ある程度絞らないといけないのではないかという意見があった。

また、医療的ケア児やその家族は、外に出る機会が少なくなり、どうしても家に閉じこもりがちになってしまい、地域の人たちが医療的ケア児の存在を知りづらい状況にあることも課題としてあがった。その延長として、災害時の対応についても具体的に検討していった方がいいのではないかという意見もあった。

令和元年11月10日に障がい福祉課と健康増進課とこども支援課で呼吸器を付けた医療的ケア児のお子さんを集めた交流会を初めて実施することになっているので、参加してくださった保護者にアンケートを実施し、医療的ケア児の孤立化予防にどのようなことが必要なかの意見を伺い今後の検討に活かしていきたい。

質疑応答

自立支援協議会は地域資源の過不足を点検して明確化するということが役割の一つであるが、学齢児の障がい児の保護者からよく聞くのが、学校が決めるバス停の調整が全くつかないという悩みである。学校側もすべての子どもの自宅のそばにバス停を作れないので大変だと思う。課題として挙がるのではないかな。

→ アンケートで挙がってきた課題は具体的に地域連携部会に報告させていただく。

- 影山プロジェクトマネージャーからアドバイス

非常に前回の会議から前に進んでいると感じる。特に地域連携部会での意見をしっかりと受け止め、各チームに持ち帰り話をされていることが見受けられた点はすごく良いと思った。福祉分野だけでなく、街づくりなどにおいても現場の人の声がすごく大事になってくる。いかにして現場対応している人たちの声を拾って活かしていくことができるかが肝心だと思う。関係機関や当事者の方とどうつながりを持っていくのか、どの分野においても「つながり」がキーワードになってきている。今後も3月のワークショップまで、また一緒に学ばせていただきたい。

部会長

地域資源を調査・研究しより良い方策を提言するチームから提案のあったアンケートの実施については、提案のとおり了承してよろしいか。

→ 異議なし

それでは、令和元年10月31日開催の自立支援協議会本会議でも各チームリーダーからチームでの検討状況の報告をお願いするとともに、地域連携部会として提案する内容としては、地域資源を調査・研究しより良い方策を提言するチームからあったアンケートの実施についてとなる。本日のチームへの意見の内容については各チームに持ち帰っていただきメンバーの方と共有をお願いしたい。

2 次回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会の議題について

事務局

次回本会議では各チームから報告をいただき、只今了承いただいた地域資源を調査・研究しより良い方策を提言するチームでのアンケートの実施と併せて、事務局から障害を理由とする差別の解消の取組みと相談事例について、今年度の取組と相談事例について議題として挙げさせていただきます。

→ 質疑なし

3 その他

・ 「会議の進め方研修」の実施と「会議の手引き」の作成について

令和元年9月5日に会議の進め方研修を実施させていただき、各チームメンバーを中心に16名の参加があった。この研修をもとに作成した手引きを本日配付させていただいた。今後のチーム運営に役立てていただきたいと思う。今後チームメンバーにも順次配布させていただく予定である。「会議の進め方」研修については来年度以降も実施したいと考えている。

また、障がい者のつながりを支えるチームを対象に、令和元年12月9日にチームビルディング研修を行う予定になっている。こちらは、限られた時間でチームとして課題を検討していけるチームを作るための研修で、今回の実施は障がい者のつながりを支えるチームのみであるが、来年度以降各チームで行っていければ良いと考えている。

・ 「報告会&ワークショップ」の開催について

令和2年3月17日にチームメンバーだけでなく広く障がい分野に関わる団体や事業所の方も参加いただき報告会とワークショップを行う予定になっている。各チームリーダーには報告の中心になっていただき、各チームごとに5分程度で検討の報告をしていただく。各チームには検討の概要を1枚の書面にまとめていただき、当日それを参加者に配付するので、それをもとに、どうしてこの課題を選んだのか、検討の経過はどうだったのか、どういう結論になっているのか、簡単に説明いただく予定である。次回のチーム会議までに書面のフォーマットを事務局で作成しお示しする。

各チームからの報告のあと、課題収集のためのワークショップを行うが、その内容のイメージとしては、現行の6チームごとにブースを作り、参加者には興味を持ったブースに集まっていたいただき、テーマに沿った課題出しワークを行う予定になっている。そのときチームリーダーと副リーダーはブースに残っていただき、その場でワークに参加いただく。当日のワークショップのファシリテーターは市民活動推進センターのプロジェクトマネージャーの影山氏にお願いしている。

課題収集のためのワークショップでの意見を地域連携部会で整理しチームを編成して、改めてメンバーを募集するが、検討が今年度中に終わらないテーマや、検討の中から新たな課題が出てきたチームなどもあると思うので、「次年度のチームに必ず引き継いで実施してもらいたいこと」がある場合は、それは新チームで必ず引き継ぐようにしたい。その他にも運営面での反省などもあると思うので3月までに引継ぎ内容を整理していただきたい。継続性と新規性と両方を考慮しながらやっていくのがベストであると事務局では考えている。ご意見があれば本日伺いたいと思う。

質疑応答

- 自立支援協議会としてのテーマが見えにくい。チーム会議と本会議のつながりが見えにくく運営上の課題だと思う。

- 専門部会の改編によりチームでの議論が活発になってきている。チームでの検討内容を本会議にあげていく中で、今後自立支援協議会としてのテーマも設定していければ良いと思う。
- 国の方向性でもある地域共生社会、共生ケアを考えると他分野との連携が必要になるが、連携の難しさを感じている。
- 障がい分野での連携だけでなく、今後子どもや高齢者などの分野間での協力や連携も必要になってくると思う。自立支援協議会としても、今後子どもや高齢者の分野の自立支援協議会と同様の役割の組織があれば連携していきたいと考えている。
- 影山プロジェクトマネージャーからアドバイス
福祉分野だけではなく、いろんな分野が一緒にならないと救いたい人を救えないという現実がある。まだ具体的にイメージしづらい部分もあるが、どういう形がいいのか、皆さんにご意見をいただきながら、協議会としてのテーマの設定や、分野を超えた連携など改編の第2弾にも協力させていただければと思う。

部会長

ほかになければ、閉会とします。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和2年2月6日

氏名 渡辺 博

氏名 星野 暁洋